

観峰館オンライン講座 第13回

秋季特別企画展の ここに注目①

～「いろは」47文字の作品～

2021年9月24日（金）9時30分～

講師；寺前公基（観峰館学芸員）

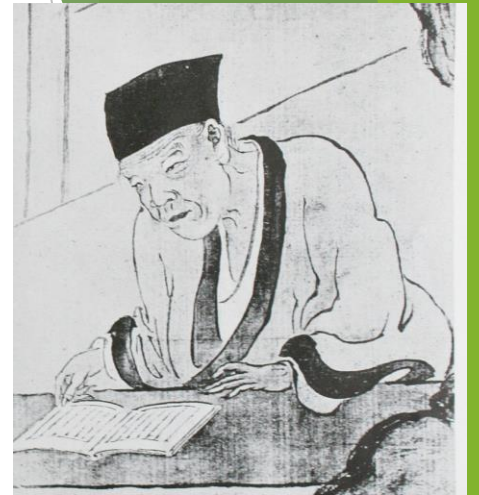
◆講座の目的◆

- ・ 秋季特別企画展について（内容の説明）
- ・ 貫名菰翁とその作品について
- ・ めずらしい「「いろは」47文字の作品

貫名菰翁とは？

貫名菰翁（ぬきな すうおう、1778～1863）は、阿波・徳島出身の書家。10代の頃に、高野山に登り学問に励む。この時に空海の書にふれている。20代に大坂に出て経学や史学を学ぶ。文化8年（1811）頃、京都に出て、聖護院辺りに自宅を構える。それまでは主に海屋（かいおく）と名乗っていたが、聖護院の名産・蕪（かぶ）の古称である「菰（とうな、すずな）」から、号を菰翁と名乗った。

菰翁と名乗って以降、書画のすぐれた作品を多く遺していたが、80歳を越えてからは中風を患い、筆がうまく動かせなかったが、それもまた個性ととらえ、「中風様」と呼ばれる作品を書き続けた。



貫名菰翁が、関西で人気となった理由のひとつに、日下部鳴鶴が最大限の評価をしたことにある。鳴鶴は、「日本の書家としては、古いところを措（お）き、近代では貫名海屋を第一等とせねばならぬ」と言っている。また、内藤湖南は、「殊に明治時代の書法の如きは、謂はゞ貫名時代と云っても差支えないのである」と最大級の賛辞を送っている。

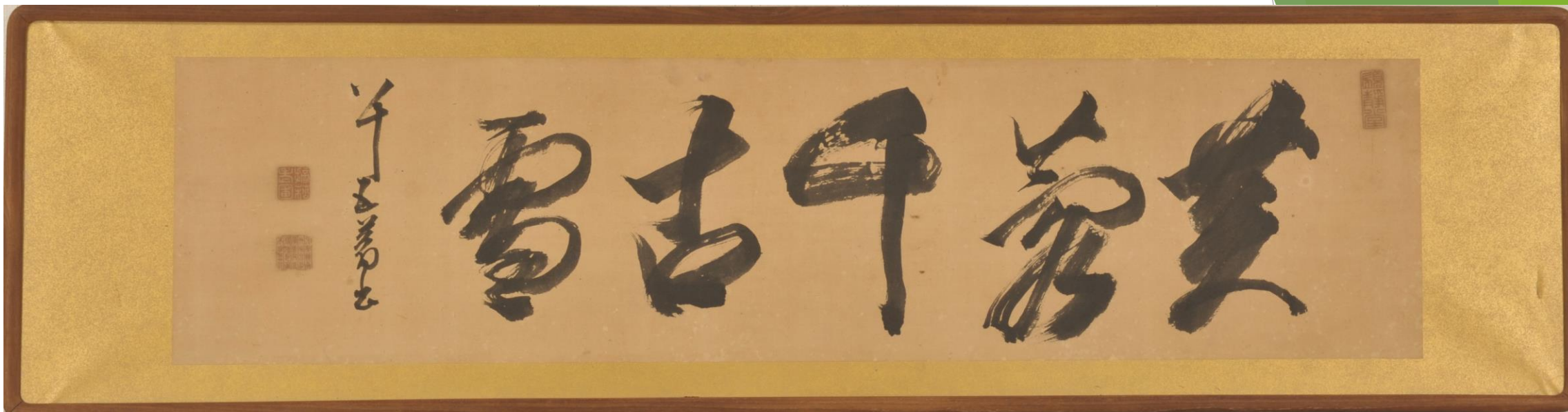
一方で、否定的な見解をとる人物もいて、例えば北大路魯山人は、「ああいうふうなゆとりのない、ガチガチに行き届いた字は、習う方にもよろしくないし、その結果はおもしろくないと思います」と言っている。

では、この展覧会に
出品している作品を
見てみましょう！



貫名菰翁「鶴春秋」江戸末期作
(江頭町自治会所蔵)

鶴というおめでたい鳥と、春秋という「長く続く」という言葉を
組み合わせて、幸せが長く続くように、との願いが込められている。



扁額の書の場合、紙（もしくは絹）幅が限られているため、文字数に応じて、縦長の形になることが多い。

貫名菴翁「芙蓉千古雪」文久2年（1862）（個人蔵）

貫名菴翁85歳時の作品。芙蓉峰（ふようほう）とは富士山のことだが、ここでは、個人宅近くから見える山（伊吹山か）のことを指している。千古雪とは、永遠の雪という意味。



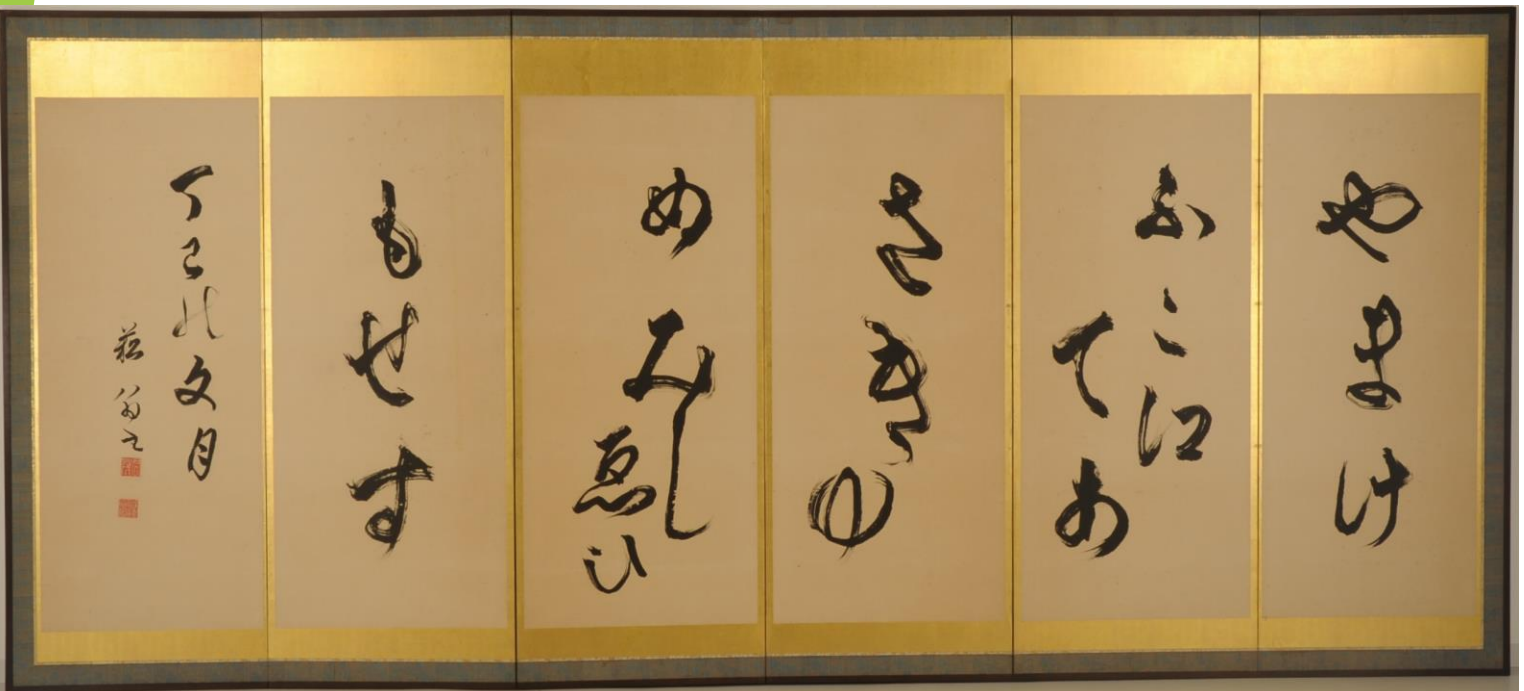
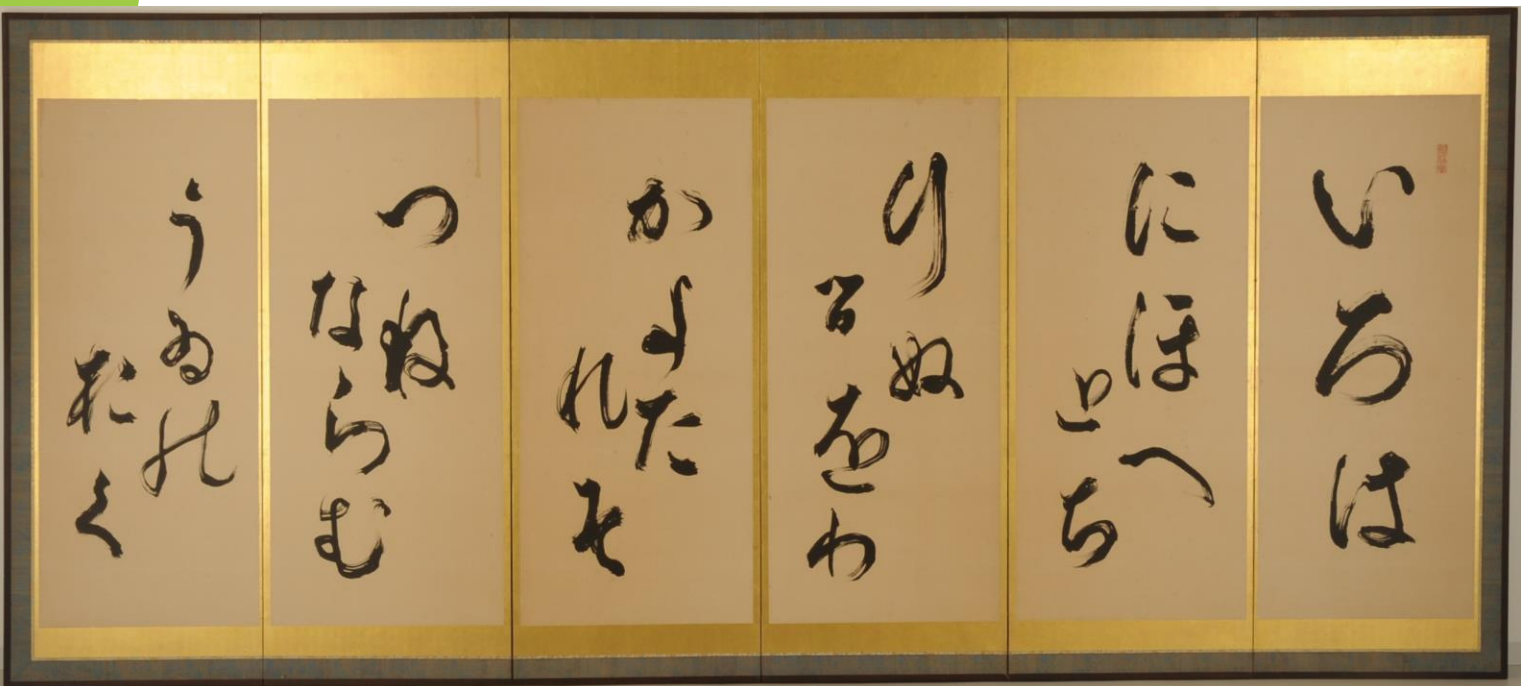
菰翁は、左右の文字を正方形に近い形を取ること
で、全体のバランスを取っている。

貫名菰翁「いろは大字屏風」

安政元年（1854）作

（観音正寺所蔵）

菰翁80歳の時の作品。



いろは歌とは？

「いろはにほへと…」でおなじみの、仮名47文字を重複することなく、七五調の文章として流布したもの。成立は10世紀末から11世紀はじめにかけてのもので、文献上では、『金光明最勝王經音義』という書物に載っている。

習字などの手習いの手本として用いられたため、とても有名になった。

いろは歌の作者は、**弘法大師・空海**とされている。真偽は不明だが、真言宗の僧侶の間では、学問のテキストとされていたことから、空海作者説が広まったとされている。

いろは歌の作品

いろは歌は、4 7 文字と決まっており、その4 7 文字を
いかに分類（改行）するかで、作品のイメージが変わる。

例えば、屏風1 双の場合、1 2 枚の紙に書くので、

4 文字が1 1 枚、3 文字が1 枚、合計4 7 文字となる。

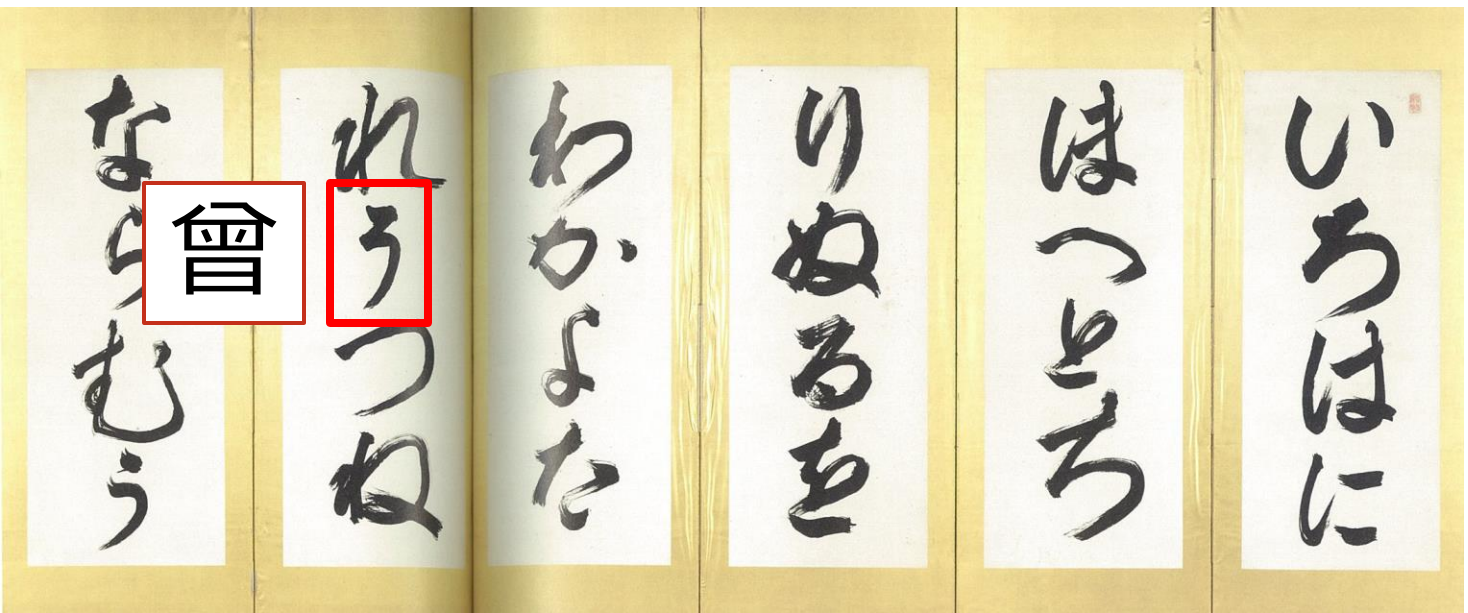
（次のページ参照）

文字の配置の仕方は、書家のセンスによるところが大きい。

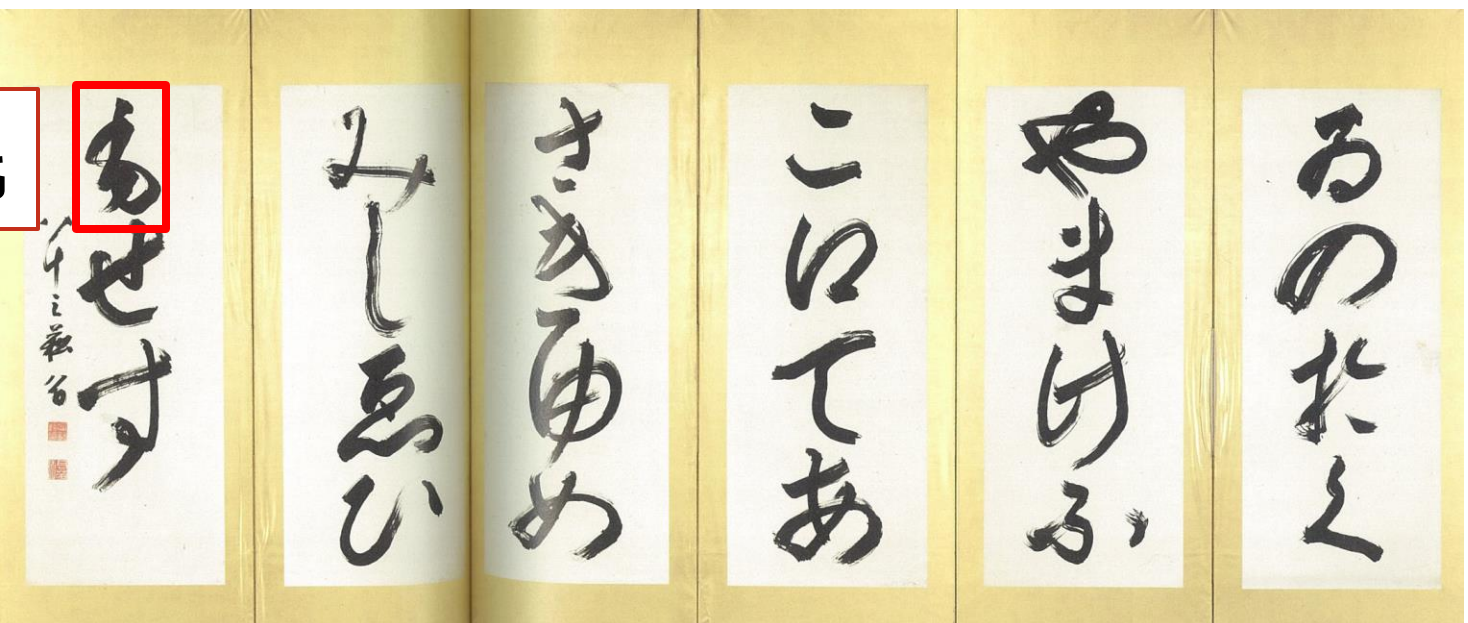
貫名菰翁「いろは屏風」

安政4年（1857）作

菰翁83歳の時の作品。



曾

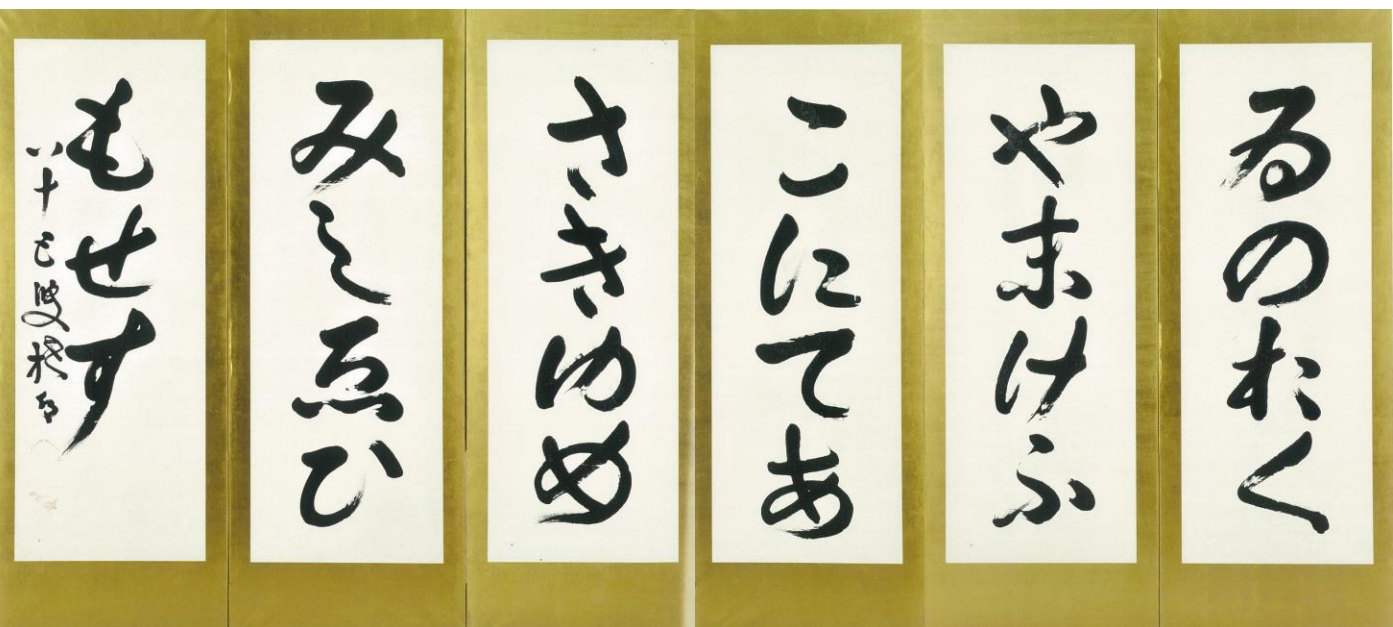
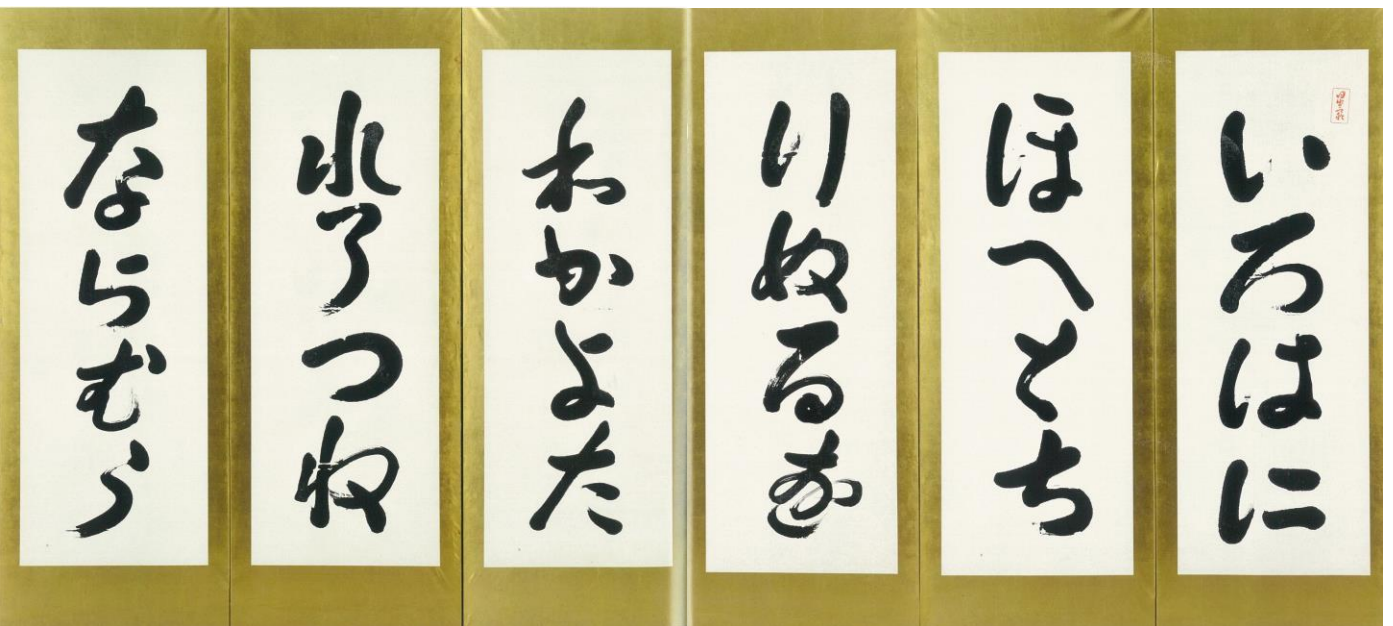


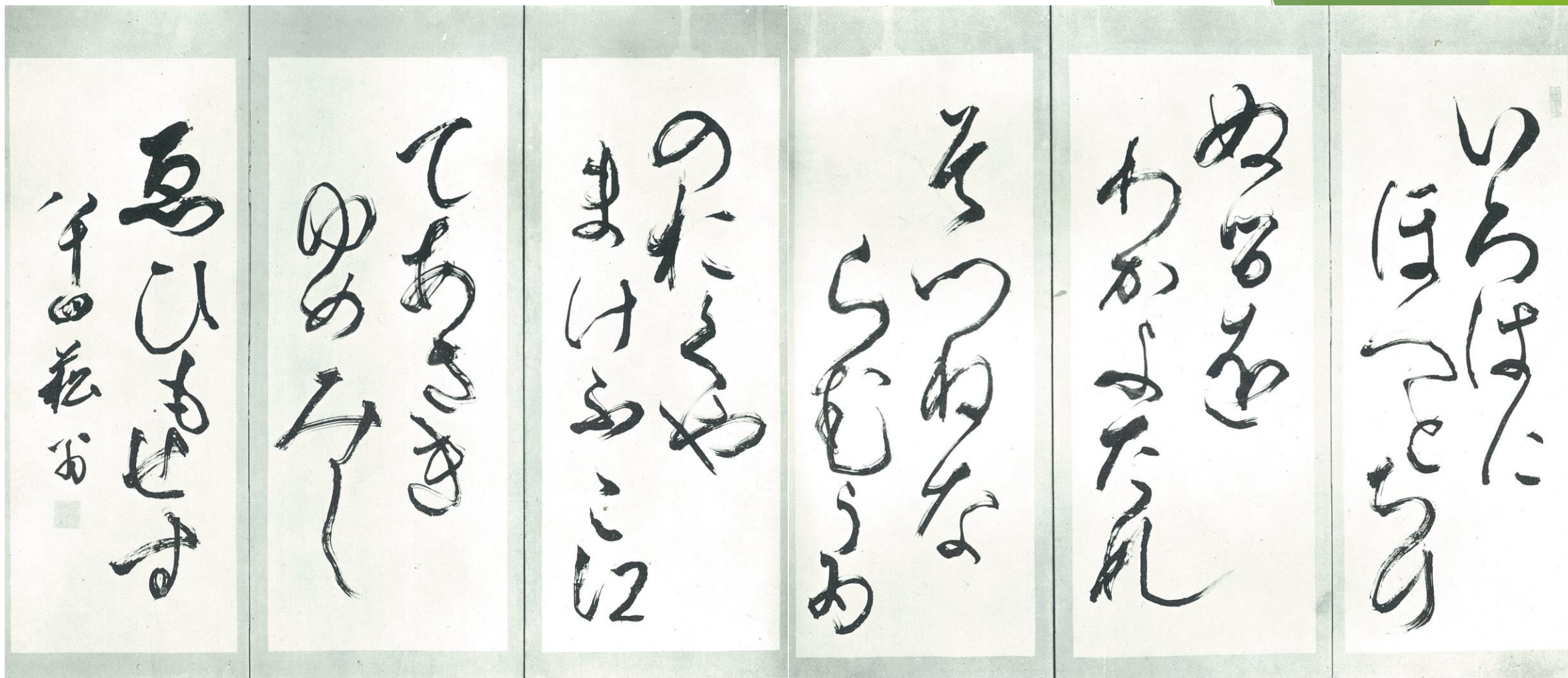
毛

中林梧竹「いろは屏風」

明治44年（1911）作

佐賀県出身の書家、中林梧竹85歳の時の作品。





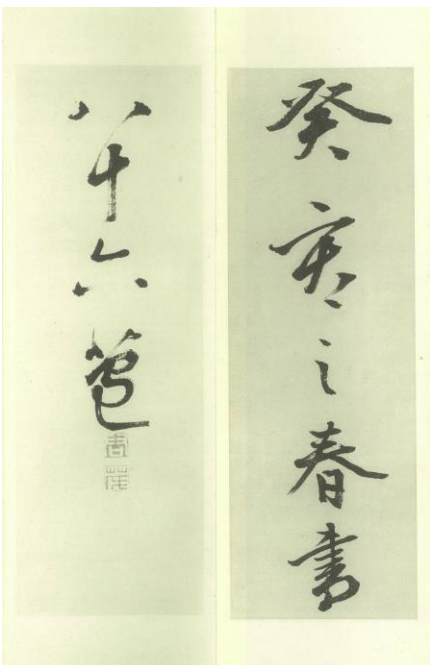
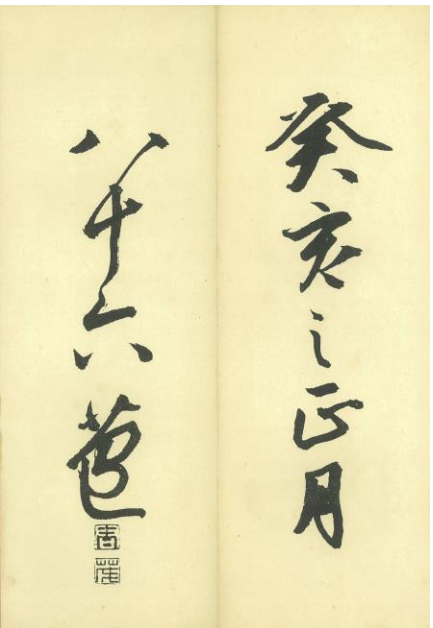
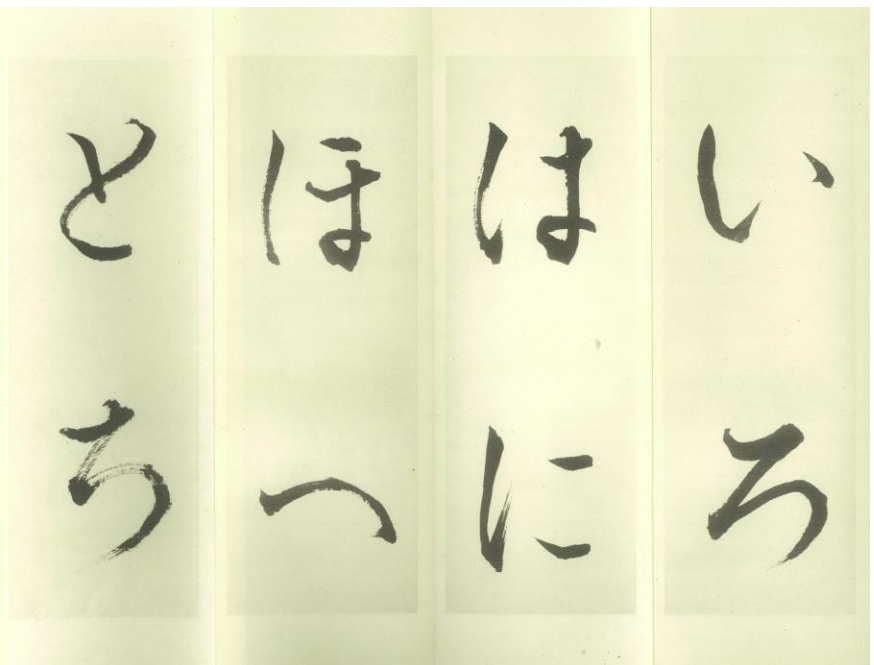
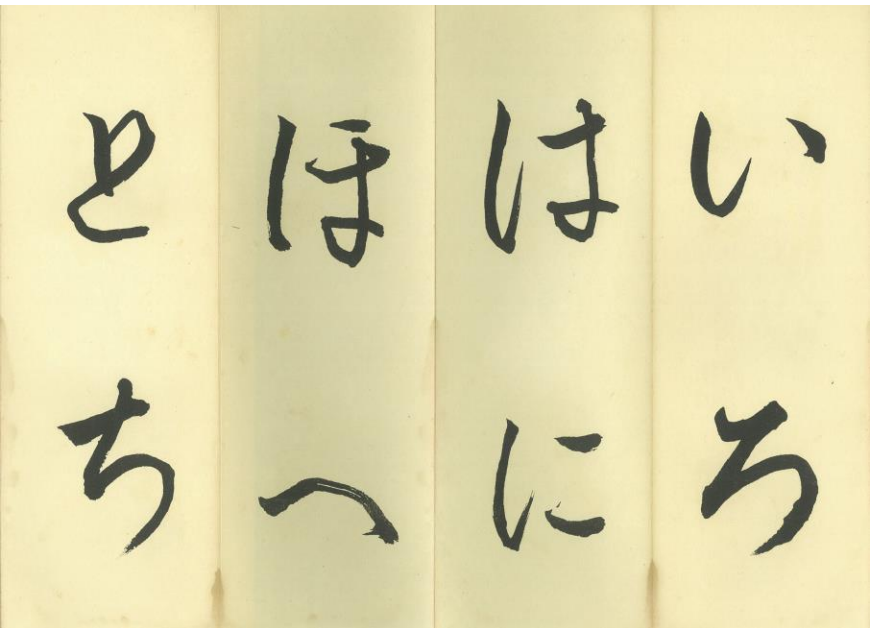
貫名菴翁 「いろは屏風」 文久元年（1861）
（個人蔵）

菴翁84歳時の作品。

貫名菰翁「いろは帖」

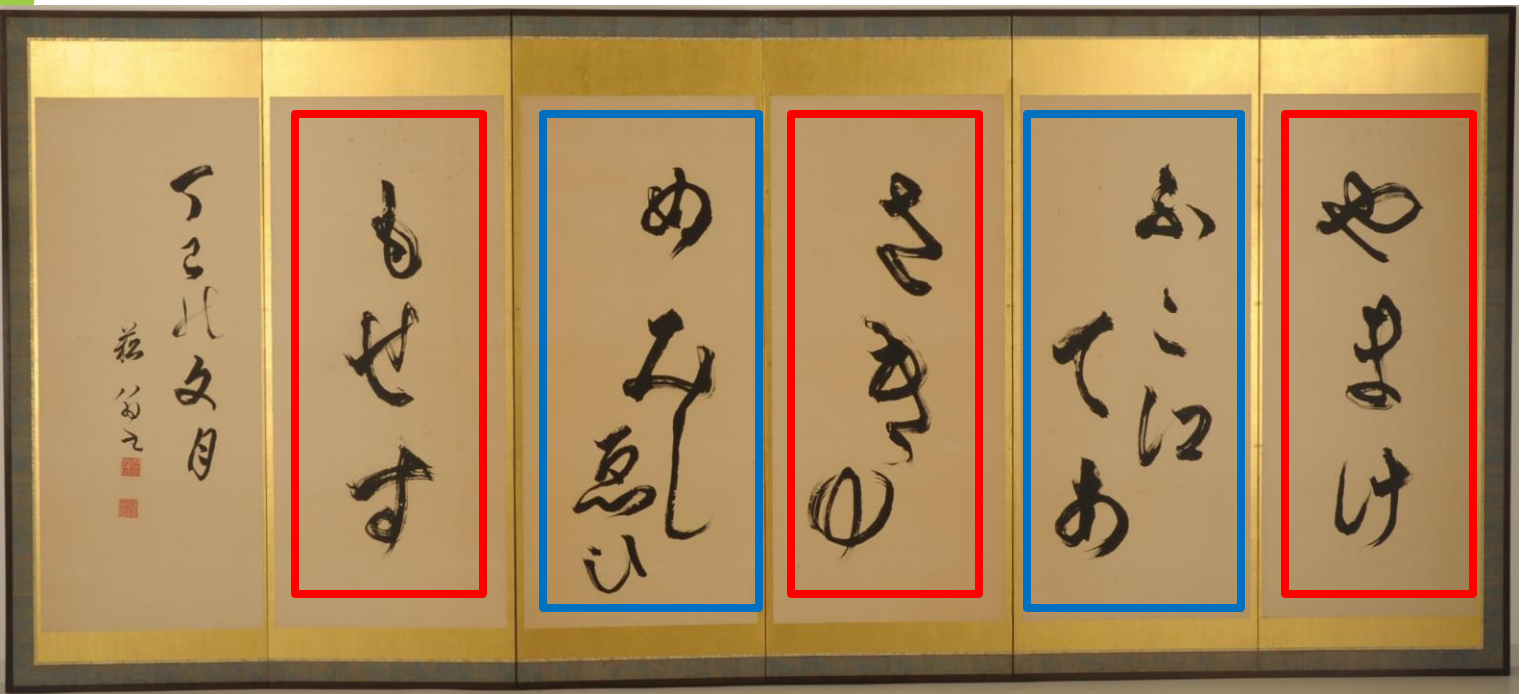
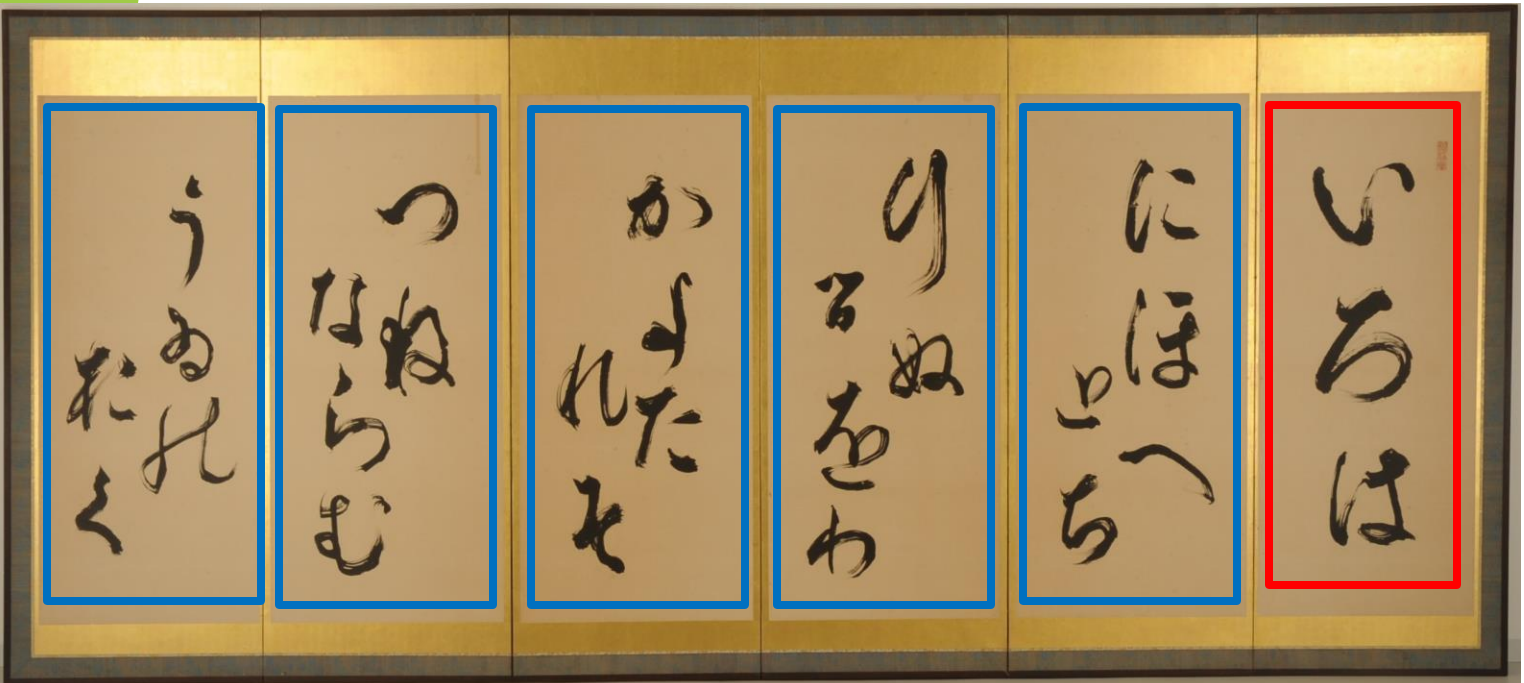
文久三年（1863）作

菰翁86歳の時の作品。屏風ではなく、折帖の作品のため、書きぶりは大人しい。



貫名菰翁「いろは大字屏風」

右隻第一扇は三文字、第二扇から六扇までが五文字、左隻は、第一・三・五扇が三文字、第二・四扇が五文字と交互になっている。第六扇は、款記のみ書かれている。



なぜ、菰翁はいろは歌を書いたのか？

80歳時に書いた「いろは大字屏風」以前、貫名菰翁が仮名で書いた作品は、知る限りではほとんどない。最晩年にこれほど仮名を書くのは、「原点回帰」という意味があったのでは？

貫名菰翁は、10代の頃に高野山に修行に行っており、また出身の徳島も、空海の生まれた故郷に近い。

もう一つ考えられるのは、教育的側面である。貫名菰翁は聖護院の地で書塾を開いており、教育者としての側面もあった。

「いろは」は、習字において、最も基本的なものであり、子どもたちへの教育的配慮もあったのでは？

今日の講座のおさらい

ありがとうございました。

次回の講座予定

- 10/5 (火) 9時30分～

「秋季特別企画展のココに注目②

～扁額の作品について～」

- 10/19 (火) 9時30分～

「秋季特別企画展のココに注目③

～巖谷一六について～」

観峰館